



# ツアーパフォーマンス Kawalala-rhapsody

アーティスト・イン・レジデンス  
城崎国際アートセンター主催事業

2017年3月から、映像作家の山田晋平さん、ダンサー・文筆家の増田美佳(嵯峨実果子)さん、文化人類学者の豊平 豪さんの3人を中心に、円山川の変遷やかばん産業など、本市の歴史や文化をリサーチしてきました。

『Kawalala-rhapsody』は、このリサーチに基づいて書き下ろされた嵯峨(増田)さんのオリジナル小説の内容に沿って、国内外で活躍する映像やダンスのアーティストと市内在住の音楽家や彫刻家が、実

演劇・ダンス・音楽など、舞台芸術のための国内最大級の滞在型創作施設(アーティスト・イン・レジデンス)である城崎国際アートセンター(KIAC)には、2014年の開館以来、世界中から多くのアーティストが作品創作のために訪れています。

KIACは、アーティストが滞在して作品を創作し、国内外の劇場や芸術祭などで作品が発表されることで、世界中に豊岡や城崎の名前を発信すると同時に、試演会やワークショップ、アーティストトークなどの交流プログラムをコーディネートし、豊岡に居ながら優れた芸術活動に触れることのできる環境を創出しようとしています。

この夏、豊岡の市街地を舞台に映像・ダンス・音楽・美術のアーティストたちが協働してツアーパフォーマンス(街歩き型の体験作品)を制作・上演しました。

実際の街を舞台に協働で創作した、川をテーマにした街歩き型の体験作品です。観客は地図と小説を手に、豊岡劇場を出発し、小学校の校庭やギャラリー、商店街、市場など、市街地各所に展開する映像・ダンス・音楽・彫刻などの作品を鑑賞して巡りました。いつも見慣れた街の景色がアート作品によって変化した特別な夏の夜となりました。

小説はKIACホームページに掲載



## ツアーパフォーマンス Kawalala-rhapsody

日にち 8月24・25日  
会場 豊岡劇場、市街地各所  
撮影協力 igaki photo studio

==参加アーティスト==

山田晋平、増田美佳(嵯峨実果子)、  
斉藤幹男、白井剛、中嶋由紀、美藤圭

# 豊岡で 創造する

【リサーチ期間：2017年3月～18年6月】 市内でのリサーチや街歩きワークショップを実施



【クリエイション期間：2018年6～8月】 各会場の作品制作や仕込み、リハーサルを実施



【公演本番：2018年8月24・25日】 2日間で250人を超える観客が作品を鑑賞



the 裏話

豊岡だから生まれた  
雲の下請け職人

プロジェクト終了後、協働で創作活動に臨んだ増田さんと美藤さんに話を伺いました（要約）。

【増田】豊岡の街をリサーチし、川をベースに小説が書けるのではないかと思います。同時に産業をリサーチする中で、

美藤さんが雲の彫刻を作っていることと、かばん職人さんの印象が混ざって「雲の下請け職人」という架空の職人が生まれました。

【美藤】私のアトリエ全体を雲職人の工房に見立てるという設定になり、雲の彫刻を作りました。映像や音響、照明

も含め、いろんなことを感じ取ってほしいと思います、空間を作りました。

【増田】豊岡には廃川や復興建築など、過去の痕跡が残っています。新興住宅地のように似通った建物ばかりではない風景に魅力を感じます。

【美藤】静かな街でこういう企画をすることは、真っ白なキャンパスに絵を描くようであり、いろいろと描きようがあることが面白かったです。

【増田】小説から、街が少し違って見えるような、見慣れた場所を違う角度から見ても発見できることがあったら、とても良いと思います。



増田さん(左)と美藤さん(右)が創作した彫刻の雲(裏)

増田美佳〔ダンサー〕  
京都市出身。詩人・文筆家嵯峨実果子の名義でも活躍。平成28年度第33回世田谷文学賞詩部門受賞

美藤 圭〔彫刻家〕  
豊岡市出身、在住。専門学校で家具のデザイン・制作を学ぶ。2015年、家具と彫刻の工房「2Bwork」として独立



裏話の全文はK I A C  
ホームページに掲載